

飯野暮雪

ふり積る雪の夕べを見ぬ人に

かくといひひののことの葉もなし

飯野の台地は、昔は樹木のうつそうと茂った人気がない寂しい丘であつた。印旛沼の湖面へ突き出たこの高台に、雪の降り積もる夕暮の風景は、まことに風情のあるものであつた。

前掲の歌は「飯野」と「言いの」の掛詞を使いながら、雪の降る飯野の夕景を詠んだものである。

――趣の深い、この美しい眺めを見たことのない人に、飯野の雪景色はこんなに見事ですよ、と話しても、そのすばらしさを言い尽くす言葉がみつからない――と謳っている。

選文 立原 三知男